

1 施策の実施状況

基本方針	目標	達成指標	令和7年度		取組状況の評価
			目標	実績	
I	③鉄道・バスを利用できない障害者・要介護者等を対象とした移動手段の確保	タクシー料金助成制度の継続実施	実施	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者に対するタクシー料金助成制度及び福祉有償運送制度を継続して実施し、適切な運用を図った。 → 今後も福祉の推進、外出機会の確保・増加を図るとともに、障害者や要介護者等に対する安全・安心な輸送サービスを確保するため、継続実施に努める。令和8年度からは高齢者の外出支援として85歳以上の高齢者を対象とし、タクシー利用料金の一部を助成する。
		福祉有償運送制度の継続実施	実施	実施	
II	⑤地域公共交通に関する積極的な意識啓発	利用促進イベント等の開催回数	3回以上	3回	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度もバス乗り方教室を2回、春日五条川さくらまつりでのPRイベントを1回開催し、バス利用の機会創出やバスロケーションシステムを知っていただくきっかけとなった。 ・市ホームページにおいて、名古屋タクシー協会HPへのリンクを掲載し、運賃や各種割引、配車アプリ対応等の情報を周知した。 → 今後も継続して実施し、利用促進に努める。
		タクシーに関する情報発信	実施	実施	
	⑥地域公共交通サービスに係る情報提供の充実	バスロケーションシステムの運用	運用	運用	<ul style="list-style-type: none"> ・バスロケーションシステムを運用し、バスの運行状況を発信するとともに、お知らせ欄を活用してイベント等を周知し、スムーズな情報発信と問合せ対応をすることができた。 ・バス情報のオープンデータを適宜更新し、適切な情報を発信した。 → 今後も最新で正しい情報を提供し、活用していただけるよう周知に努める。 ・鉄道駅にあしがるバスの案内表示をするための協議を行った。 → 案内表示をし、周知を行う。
		バス情報のオープンデータ化	実施	実施	
		鉄道・バスに関する情報提供	実施	実施	
	⑦安心・安全かつ円滑・快適に利用できる駅前環境の整備	自転車等放置禁止区域の見回りの実施	実施	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に自転車等放置禁止区域の見回りを実施し、自転車の放置防止に関する啓発に努めている。 ・清洲駅前土地区画整理事業では、区画道路の道水路築造、埋蔵文化財調査及び移転補償を行った。 ・新清洲駅北土地区画整理事業では、名鉄仮線用地以外の整備が完了した。 → 今後、鉄道高架化事業の進捗に応じて、仮線用地内の整備を進めていく。
土地区画整理事業の推進（JR清洲駅）		実施	実施		
鉄道高架整備の推進（名鉄新清洲駅）		実施	実施		
III	⑧市民・交通事業者・行政の協議の場づくり	地域公共交通会議の開催時期・回数	3回以上 (5月・10月・3月)	3回 (6月・11月・3月)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通会議を3回開催し、第2次地域公共交通計画に沿った議題を中心に、市民、交通事業者、関係団体との協議を行った。 → 今後も、地域公共交通計画に基づき、適切に会議を開催していく。
	⑨市民ニーズの把握	市民アンケート調査の実施	実施	実施	

2 施策実施の成果

基本方針	目標	達成指標	令和7年度		取組状況の評価
			目標値	実績値	
I	①隣接市と連携した鉄道の更なる価値向上	鉄道の利用者数（年間）	756万人	779万人	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道の利用者数は7,789,695人と目標値を達成した。 JR 3,009,246人、名鉄 4,572,964人、城北線 207,485人 → 引き続き鉄道事業者と連携し、利便性向上策や情報提供を実施する
	②あしがるバスの効率的な運行と移動利便性の向上	あしがるバスの収支率	7.9%	7.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・あしがるバスの収支率については、長引く原油価格の高騰により燃料油脂費が高止まりしているなか、利用者数がコロナ禍前の状況を上回り増加傾向にあった令和6年度から減少し、<u>目標値を達成することができなかった。</u> ・あしがるバスを利用したことがある人があるの割合については、市民満足度調査結果より測定することとなっているが令和7年度は実施なし。 ・あしがるバスの利用者数は、未達成となった。ルート別にみると、オレンジルートとブルールートにおいて目標値を達成した。一方、グリーンルートとサクラルートにおいては目標値を達成することができず、さらに昨年度を下回る結果となった。 ・あしがるバスの利用者1人当たり財政負担額については、令和6年度の805円から大幅に増加して1,037円となり、目標は未達成となった。 → 今後も新規利用者の獲得に向けて、イベント等に合わせて利用促進施策を継続実施するとともに、利用方法やバスロケ等の活用の周知に努める。
		あしがるバスを利用したことがある人の割合	—	—	
		あしがるバスの利用者数（年間）	92,500人	86,641人	
		【参考】 オレンジ	15,000人	15,606人	
		グリーン	28,100人	24,383人	
	サクラ	29,600人	26,026人		
ブルー	19,800人	20,626人			
あしがるバスの利用者数（1便あたり）	5.7人	5.4人			
【参考】 オレンジ	3.8人	4.0人			
グリーン	7.1人	6.2人			
サクラ	7.5人	6.6人			
ブルー	4.6人	4.8人			
市の財政負担額（利用者1人あたり）	900円	1,037円			
④市内観光施設を巡る移動手段の確保	レンタサイクルの利用者数（年間）	230人	306人	<ul style="list-style-type: none"> ・レンタサイクルの利用者数は、<u>令和6年度の292人から4.79%増加</u>し、徐々にではあるが事業の認知度が向上しているものと推察される。清洲城の来場者数も増加していることから、観光客による利用者増加もあると推測される。令和7年5月から西枇杷島福祉センターにも貸出・返却ポイントが追加され、利用者が増加した。 → 今後も引き続き観光誘客の促進と合わせて事業の周知に努める。 	
II	⑤地域公共交通に関する積極的な意識啓発	あしがるバスを利用したいと思った人の割合	90%以上	90%	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校での乗り方教室のアンケートにてあしがるバスを利用したいと思った人の割合は<u>90%</u>であり、目標を達成した。 ・あしがるバス一日無料デーは、過去最大の利用があった令和6年度の498人を更に上回り、<u>506人の方に利用していただいた。</u>令和6年度はオレンジルートの利用が最も多かったが、令和7年度はサクラルートが最も多く、ついでブルールートが多くの方に利用していただいた。昨年8月に「清洲総合福祉センター」バス停を「清洲総合福祉センター・清洲城西」に改め、まつり会場へのアクセスとして、オレンジだけでなくサクラやブルーでも行くことができることが認知されたことで、利用者が分散したと推察する。 → 今後も、新規利用者の獲得や継続利用のきっかけづくりとして継続して実施していく。
		あしがるバス一日無料デーの参加者数	450人程度	506人	